

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172300154		
法人名	有限会社 老古美興産		
事業所名	グループホーム「そよかぜ」岩内		
所在地	岩内郡岩内町字栄2番地10		
自己評価作成日	平成27年9月16日	評価結果市町村受理日	平成28年1月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172300154_00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成27年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、岩内町には一つしかないグループホームです。建物は二階建てで、居住スペースは二階ですが階段には昇降機を設置し、歩行困難な利用者様にも病院受診や買い物・外出を安心して行えるよう配慮しています。二階のホールからは銀座通り商店街の街並みを見ることができ、往來する車や人・夏祭りの行列や花火を楽しんだり、季節の移り変わりを感じることができます。買い物や散歩に出かけやすく、地域の方とふれあう機会も多々あります。理念の「認知症になっても、住み慣れた町で その人らしく過ごして頂きたい」を、職員一同 常に考え、その人らしいケアを心掛けています。又、家族との関係を大切に、交流会は年に2〜3回行い、利用者様・職員と一緒に楽しんだり、ご家族様同士 気軽に話せるような場を作るよう心掛けています。遠方にお住まいのご家族様には、毎月「そよかぜ便り」に日々の様子を個々に載せ、お知らせしています。家庭的な雰囲気大切に、食事はほぼ手作りし季節の物や地元の食材をメニューに入れ、利用者様には美味しい物を食べてもらえるよう、職員一同 努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岩内町の中心、銀座通り商店街に位置する木造2階建ての2階にある1ユニットのグループホームで、近くには木田金次郎美術館、岩内港、文化センター等があり環境に恵まれている。ホール・食堂は一体的で広い窓から日差しが入り明るく、商店街の並木には「ななかまど」が赤く実り、通りを往來する人々や、岩内港を眺めながら季節の移り変わりを感じることが出来る。利用者は地域のかかし祭りにかかしを出品したり、手作り市で職員が手作りした物などの販売をしたり、敬老会などの行事に参加して地域と交流している。毎月ボランティアが来訪し、一緒に歌を歌ったりして交流し、近くの幼稚園児が来訪し、歌や、遊技、肩たたき等のプレゼントがあり、利用者は園児と握手をしたり、「おやつ」などをプレゼントして交流している。職員は明るく、利用者が住み慣れた町・地域で安らぎと喜びのある日々をその人らしく過ごせるよう、レクリエーションを兼ねた運動でリハビリを取り入れて、体調が悪くならないよう気をつけている。、利用者はテレビを見たり、会話をしたり、コーヒー・お茶を飲んだりして思い思いに過ごしている。管理者を中心に、全職員が 利用者の日常生活がマンネリ化することなく、変化と潤いがあるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた町、住み慣れた地域という内容を理念に入れ、地域密着を実践に繋げている。	事業所理念「住み慣れた町、住み慣れた地域、高齢であつても安らぎと喜びのある日々を、その人らしく過ごしていただきたい。」を、玄関、食堂に掲示し、年度当初の会議で話し合つて全職員で共有して、ケアプラン作成時には理念に沿っているか確認し、日々のケアにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での買い物・散歩・行事やお祭り等に参加し、交流の場を増やしている。	地域の祭り、敬老会などへの参加や、買い物、散歩などで地域の一員としてと交流している。幼稚園児、ボランティアが来訪し相互に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を支える家族の会や、ボランティア受け入れ時等に、施設内での支援方法等を話し参考にしてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	水分の足りていない利用者様について、シャーベット状、経口保水液利用等の助言を頂いたり、地域の人からもアドバイスを頂き、向上に努めている。	地域住民、家族、町職員、地域包括支援センター職員などが参加して年6回実施している。行事予定、職員体制、避難訓練の結果等を報告して、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会は、必ず交代で参加してくれ、外出行動の激しい利用者様の事を伝え、協力して頂いている。	利用者に関する書類の提出時や運営推進会議参加時に、利用者の状況や事業所の運営に関する様々な問題について情報を交換し、指導・助言を受け協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為、夜間は施錠しているが、研修等に参加し職員間で学ぶ機会を作っている。どうしても身体拘束の必要な利用者様には、ご家族に説明し了承を得ている。	外部研修会等に参加し、研修結果を職員会議で報告して問題点を共有し、身体拘束をしないケアに努めている。緊急やむを得ない場合は、「身体拘束廃止委員会」で検討し、身体拘束が必要な場合には家族に説明して同意書を得ることとしている。防犯のため夜間は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会等に参加し、職員間で話し合える様、会議で議題を上げ、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会があれば参加しているが、まだ活用できるような機会はない。					
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定等があれば、家族会や面会時お便り等で知らせ、説明し疑問等にも都度対応している。					
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等、利用者様を含めた発言の場が多くあり、利用者様・ご家族からの要望には出来る限り答えられる様、努めている。	利用者との日常の会話から意向の把握に努め、家族等の意見は来訪時の会話、家族会、運営推進会議の意見など、意見や意向を把握して、職員会議で話し合い運営に反映するよう努めている。				
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や勤務時に、意見を伝える場があり、意見や提案が日常的に話われている。	職員が意見を言いやすい環境作りに努め、意見や提案は、職員会議や勤務時の会話から日常的に意見交換が行われ、その都度、意見反映の機会がある。また、代表者がほぼ毎日事業所を訪れて利用者の声、職員の意見を聞いている。職員の提案で給与体制の見直しを行った。				
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体制の見直しがあった。					
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ参加するよう声掛けしてくれ、参加後は会議で報告し全員で勉強している。					
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や地域の関係者の集まりに参加し、交流している。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前訪問し、要望に一つでも対応できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前は、本人と一緒にご家族の要望も聞き対応できるよう努め、ご家族来所時も話しやすいような雰囲気作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の意見を聞き、状態に合わせた支援をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	教えてもらったりしながら、一緒に生活し信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、ご家族に食事の介助をしてもらったり、一緒に外出してもらったりしている。家族間でコミュニケーションが取りずらそうな場合は、なるべく間に入り過ごしやすい環境作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は、ゆっくりできるよう配慮したり、馴染みのお店に買い物に行ったり、美容室に出かけたりしている。	利用者の生活歴を把握して、理美容室への継続や買物、地域の祭りに参加して馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、知人・友人の来訪時には、お茶を出すなどしてゆっくり話が出来て馴染みの関係が継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状態を把握し、一緒に行ったり職員が手伝ったりしながら、孤立しないよう関わり合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移っても、面会に行ったりご家族に会ったら声を掛けたりしている。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動・言動・表情等から、思いや希望を把握するように努めている。		日常の関わりを大切に、利用者が寛いでいるときの会話・表情、家族の情報などから、思いや意向を把握し、介護記録で職員が共有して希望や意向に添うよう支援している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族や本人から情報を頂いている。センター方式の様式を使用。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の様式にて、できるだけ状態を把握するようにしている。					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を尊重しながら、毎月担当者会議と全体会議を開き、評価・見直しをし計画を立てている。		利用者、家族の意向を反映させ、ケア会議、全体会議で協議し3ヶ月毎に介護計画を作成し家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度、見直すこととしている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にケアの実践をチェックし、職員間で共有し見直しの時には、その評価をしている。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢化・重度化している為、その状態に合わせて対応している。町外の病院同行もしている。					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや幼稚園の来訪を取り入れている。					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が難しくなってきた利用者様には内科の往診を利用し常に状態を報告している。なるべくはかかりつけ医で対応している。		利用者、家族の意向に添ったかかりつけ医に受診している。希望により職員が付き添い利用者の状況を医師に説明している。変化があれば家族へ状況を報告し、毎月「そよかぜ便り」に利用者の近況を付記して家族に知らせている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態報告をし受診の判断や処置の仕方を教えてもらったりしている。					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供を行い入院中もほぼ毎日のように面会に行き関係を築いている。					
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い一番良い方法を取れるよう支援し主治医とも話し合っている。	重度化した場合や終末期のあり方について「看取りに関する要綱」に基づき契約時に説明し納得を得ている。重度化した場合は利用者、家族の意向を聞いて主治医や協力医療機関と連携して、希望に添えるよう支援することとしている。現在まで2名の看取りを行った。	職員のスキルアップや自信に繋げるため、看取りに向けた具体的な対応や各職員の役割等様々な事例研修を実施して、実践を想定した研修会・勉強会を実施し、態勢を整えることを期待する。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を全員で受けている。事故発生時応急手当が必要などとき等も看護師に連絡し実践に繋がるような対応が出来ている。					
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い地域の方にも協力してもらっている。	消防署、地域住民、関連企業の職員等が参加して年2回(夜間想定、日中想定)避難訓練を実施している。また、町の原子力防災訓練にも参加している。地域や関連する企業の協力を得て、避難する体制を構築している。水、食料等を備蓄している。				
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない声掛け言葉掛けを心掛けている。	日々の生活の中で本人の気持ちを大切に、トイレへの誘導では、他人に気付かれないようさりげなく声をかけるなど、利用者のプライバシーや尊厳を損ねないよう努めている。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話している中で本人の思いを聞いたり、本人が決定できるように問いかけをしている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが体調や気分に合わせて、出来る限り本人のペースに合わせて支援している。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服を選んで着て貰ったり、定期的に美容室に行ったり来てもらったりしている。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には好きなものを提供したり、本人に決めて貰ったりしている。一人ひとりの力量を見極め手伝い片付けをしてもらっている。	献立は利用者の希望を聞いて作り、寒い時期には「鍋料理」、地元の海の食材、山菜など、季節の料理を楽しんでいる。誕生日には、「誕生祝ケーキ」や本人希望の料理を作り、外食、家族との外食を楽しむこともある。能力に応じ片付けなどを行い、職員と一緒に食卓を囲んで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は見やすくまとめ職員間で共用し毎月見直し水分を摂る工夫や食事量の調節をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を見極め見守りや介助をしている。毎晩入れ歯洗浄剤に浸けたり口臭の強い方には舌磨き、マウスウォッシュを使っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けトイレ誘導を行っている。リハビリパンツ、パットの使用から尿漏れパンツに変え生活できるようになった方もいる。	排泄パターンを記録し、表情や態度に気をつけながら声かけトイレ誘導を行って排泄の自立を支援している。リハビリパンツ、パットから尿漏れパンツの使用に改善されて来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはコーヒータイムにココアを飲んでもらったりバナナ、エネーボを食べて貰ったりしている。ゆらゆら体操や朝のラジオ体操も一緒に行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが体調や気分に合わせて入浴してもらっている。	一日おきに入浴、毎日の入浴も可能となっている。入浴を嫌う利用者には声かけなどに工夫し、健康管理上、最低でも週1回入浴を支援している。入浴剤を使用して、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた証明の調節や就寝する時間もその人に合わせた時間に寝て頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変化があれば職員、看護師、ドクターへ状況を伝えその時々合った薬の服用をして頂き管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日役割を持ち張り合いを感じている方が半数以上だが、本人に合った役割が持っていない利用者様もあり、今後に向け役割を見つけられるよう努めたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出できる利用者様は限られているが希望を聞いて行けるよう支援している。ご家族が外出へ連れ出してくれる事もある。	天気の良い日には、散歩をしながら馴染みの店に立ち寄りおやつを購入したり、花見、紅葉見学、ドライブ、ホテルで食事、家族との外食など日常生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。				
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は1名だけだが、職員、ご家族の把握のもと、好きなものを買って頂いている。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があればこちらから連絡を取っているし、ご家族からも電話が来るので会話をしてもらえる様支援している。					
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾をして楽しんでいる。落ち着いた配色で光るアロマをホールや廊下に置き癒しの空間を作っている。	ホール・食堂は一体的で、行事の写真などを飾り、窓には銀杏の葉などを貼って季節感を取り入れ楽しんでいる。大きな窓からは、外路樹の緑、行き交う車、日本海に沈む夕日を見ることが出来る。利用者は家庭的な雰囲気の中で、お茶・コーヒーを飲んだり、テレビを見たり、おしほりをたんだりしながら思い思いにゆったりと居心地よく過ごせるよう工夫している。				
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どこにでも座れるように椅子やテーブルを置き仲の良い利用者様同士で会話してもらっている。眠たくなったらホールのソファで眠る利用者様もいる。					
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長期入居の利用者様には身体状況に合わせて低いベッドや電動ベッドに変えたりして寝心地良く過ごして頂いている。	居室は整理整頓され、使い慣れた家具を配置し、仏壇、思い出の写真等を飾り、居心地良く生活できるよう工夫している。編物をしている利用者もいる。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る出来ないを把握してトイレ利用時もトイレの標示をしたり、トイレ内にも手すりを多く取り付け安全に使用して頂いている。					